

日時：2010年7月3日（金）16：00～19：15

場所：東洋大学3号館第2会議室

日本パーソナリティ心理学会第97回常任理事会

出席：浮谷秀一理事長、堀毛一也副理事長、藤田主一、渡邊芳之、中村真、家島明彦（広報副委員長・小塩真司委員長代理）、山崎晴美

委任：松田英子（浮谷理事長）、二宮克美（浮谷理事長）、向田久美子（浮谷理事長）

事務局長：加藤司

報告事項

各種委員会報告

1 機関誌編集委員会（渡邊委員長）

（1）編集委員会の開催状況

編集委員会は開催されていない

（2）「パーソナリティ研究」第19巻1号の発行状況について

7月中に発行予定である（予定通りである）

（3）「パーソナリティ研究」第19巻2号の編集状況について

採択論文は原著4本，資料3本，ショートレポート2本の9本，修正採択修正中が4本ある。

（4）投稿状況について

年	月	原著	資料	ショートレポート	展望他	合計
2009	7	5	1	3	0	9
	8	2	0	0	0	2
	9	3	2	1	0	6
	10	0	0	1	0	1
	11	3	2	2	0	7
	12	3	0	3	0	6
2010	1	1	1	3	0	5
	2	2	1	0	0	3
	3	2	0	4	0	6
	4	3	1	3	0	7
	5	2	0	2	0	4
	6	3	3	2	0	8
年間計		29	11	24	0	64

（5）審査状況について

採択率は6割強である。

2 経常的研究交流委員会（代理報告：浮谷理事長）

大会でのシンポジウムの準備状況について説明がなされた。

3 広報委員会（代理報告：家島副委員長）

（1）活動報告

（2）ヤングサイコロジストプログラム

* 研究発表及び講演「論文採択虎之巻 - これから論文を書く若手会員のために - 」の企画を進行中である。

（3）大会企画

「パーソナリティ測定における方法論」を企画進行中である。

（4）今後の活動予定

4 国際交流委員会（代理報告：浮谷理事長）

（1）国際シンポジウム

題目「質的研究の最前線 - 移行のナラティブと研究評価をめぐって」

日時：2010年6月27日 午後1時から5時

講演者：Michael Bamberg (Clark University) “Selves + Identity in the Making: Change, Transitions + Narrative ”

Katrin Kullasepp (Tallin University) “Dialogical Becoming: Professional Identity Construction of Psychology Students ”

Michael Bamberg (Clark University) “Narrative Inquiry ”

場所：東京大学 山上会館

主催：日本質的心理学会・日本パーソナリティ心理学会

以上の国際シンポジウムを実施した。

* Kullasepp 先生に論文を寄稿していただくよう依頼した。

（2）19回大会における Roberts 先生セミナー企画

テーマ：遺伝から文化まで幅広くパーソナリティや適応を考える

話題提供者：谷伊織（浜松医科大学）、山形伸二（慶應義塾大学）、平石界（京都大学）、菅知絵美（東京女子大学）

指定討論者：Brent W. Roberts（イリノイ大学）

（3）"P"の原稿

サトウタツヤ先生による History of personality psychology in Japan を投稿した。6月29日配信の第5号に掲載（<http://www.personality-arp.org/newsletter05/index.html>）されている。

5 学会活性化委員会（藤田委員長）

（1）本年度大会（慶應義塾大学）からの委員推薦について

* 安藤寿康大会準備委員長から、木島伸彦先生（準備委員会事務局長）の推薦があり、承認された。任期は大会発表賞の結果が明確になるまで。

(2) 本年度の大会発表賞について

* 本年度も前年度と同様の手続きで大会発表賞を決定する予定です。

(3) 大会発表賞に関わる懸案事項について

「大会発表賞規程(細則)」の作成について

* 来年度に向けて、現在検討中である旨の報告があり、作成を進めることになった。

6 各種電子化検討小委員会(中村委員長)

(1) 電子化のアンケート案について

1) アンケートの表題: 機関誌の電子版強化ならびに紙媒体(印刷版)の廃止に関する会員向けアンケートの実施計画(案)

2) 目的: 機関誌「パーソナリティ研究」の電子版強化ならびに紙媒体(印刷版)の廃止について検討するための予備的データを得るために会員向けアンケートを実施する。

3) 方法

第19回大会に参加した一般会員および院生会員(非会員を除く)を対象にする。

2 日本心理学諸学会連合

(1) 日本心理学諸学会連合について(浮谷理事長)

1) 6月20日(日)に定例理事会があり、国資格に関して、学部教育カリキュラム案が理事会で提示された。分担金の返還の時期について議論されたことが報告された。

2) 連合の賛助会員の特典について

* 検討する価値はある。今後、検討する。

(2) 心理学検定試験について(藤田常任理事)

* 7月2日現在、2,255名の受験者があることが報告された。

3 第19回大会準備状況について

* 報告なし

4 事務局報告(加藤事務局長)

(1) 新入会希望者(審議事項)

(2) 会勢報告

* 賛助会員1名、名誉会員6名、一般会員573名、院生会員273名、学生会員7名、計860名(7月1日現在)

(3) 幹事の推薦

* 日本パーソナリティ心理学会会則第9条(運営)事務局「...事務局長は必要に応じ幹事を置くことができる。...」によって、太幡直也氏(常盤大学)を幹事にする事が承認された。

5 性格心理学ハンドブック(仮題)について(堀毛担当委員)

6 その他

* なし

審議事項

1 2009 年度決算、2010 年度予算に関する件

(1) 2010 年度予算案

* 改めて確認され、承認された。

(2) 2009 年度決算案

* 決算案が提示された。一部不明な点があるので次回改めて審議する。

2 名誉会員推挙に関する件

* 本年度該当者なし

* 事務的に該当者（年齢）を検討し、常任理事会で最終決定する。

3 第 96 回常任理事会議事録承認に関する件

* 部分的に修正後、承認された。

4 新入会員に関する件

(1) ML 常任理事会で承認済み

追認された

(2) 未承認

院生会員 4 名の入会が承認された。

(3) 会勢報告

* 以上を反映させて、賛助会員 1 名、名誉会員 6 名、一般会員 573 名、院生会員 273 名、学生会員 7 名、計 860 名（7 月 1 日現在）

5 その他

今回は、9 月 1 日 14 : 00 時より、東洋大学にて